

自治体名	北海道
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	595	8月18日
人口10万人当たり	11.3	8月18日
(2) 療養者数	5,144	8月27日
(3) 入院者数	989	8月30日
うち重症者数	27	9月6日
(4) 宿泊療養者数	751	8月20日
(5) 社会福祉施設等療養者数	15	8月17日
(6) 自宅療養者数	2,849	8月27日
(7) 療養先調整中の人数	1,281	8月19日
うち入院先調整中の人数	—	
(8) 確保病床数	1,994	9月1日
重症者用確保病床数	143	9月1日
(9) 確保病床使用率	49.60%	8月30日
重症者用確保病床使用率	18.90%	9月6日
(10) 確保居室数	2,385	9月1日
(11) 確保居室使用率	31.50%	8月20日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	1	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	1,207
(2) 最大療養者数	9,685
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	20%
【算定に当たっての考え方】 ○過去最大の感染拡大と同規模の発生を想定し、各保健所ごとに過去最大の1日あたり新規陽性者数・最大療養者数を積み上げて算出。 ○人口規模の近似する他県であっても、人口密度や感染状況が大幅に異なるため、他県比較は行わない。	
(3) 最大要入院者数	1,568
【算定に当たっての考え方】 ○各保健所ごとに想定する最大療養者数をベースとし、三次医療圏又は保健所設置市毎の過去最大の感染拡大時における入院率や今後の高齢者割合の上昇を踏まえるなどして算定。（札幌・江別・千歳保健所は札幌圏として算定）	
(4) 最大宿泊療養者数	1,422
(5) 最大自宅療養者数	6,695
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	673

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	2,000
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	75
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	2,027
うち重症者用病床数	137
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	144 (2施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	42 (2施設)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	2,370
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	16,257
〃 追加で確保が必要な数	1,527
〃 予定確保期限	令和4年度当初
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	133
〃 追加確保予定数	27
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	調整中
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関する医療機関数	405
〃 訪問看護ステーション等数	52
〃 薬局数	519
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	731

自治体名	青森県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	139	8月26日
人口10万人当たり	11.4	8月26日
(2) 療養者数	1131	9月5日
(3) 入院者数	164	9月6日
うち重症者数	2	9月6日
(4) 宿泊療養者数	158	8月29日
(5) 社会福祉施設等療養者数	28	9月20日
(6) 自宅療養者数	582	9月2日
(7) 療養先調整中の人数	465	8月29日
うち入院先調整中の人数	0	8月29日
(8) 確保病床数	302	9月1日
重症者用確保病床数	31	9月1日
(9) 確保病床利用率	54.30%	9月6日
重症者用確保病床利用率	6.45%	9月6日
(10) 確保居室数	320	9月1日
(11) 確保居室利用率	50.97%	8月29日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	1日	期間全体を通じた日数

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	139
(2) 最大療養者数	1131
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	20%
【算定に当たっての考え方】 今夏の最大感染拡大時の療養者数の実績は14%であり、今後感染者全体に占める高齢者の割合が再び上昇することを考えて、20%とした。	
(3) 最大要入院者数	281
【算定に当たっての考え方】 今後、更なる感染拡大が生じた場合には、感染者全体に占める高齢者の割合が再び上昇することを考えて、係数③については今夏の120%として算定。	
(4) 最大宿泊療養者数	490
(5) 最大自宅療養者数	360
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	36

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	352
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	31
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	405 (※1)
うち重症者用病床数	31
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	30 (3施設×10人) (※2)
(4) 入院待機施設の必要定員数	0 (※2)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	700
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1600
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	確保済み
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	26
〃 追加確保予定数	44
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	22 (※3)
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	22 (※3)
〃 訪問看護ステーション等数	0
〃 薬局数	26
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	360 (※3)

(※1)

本県の医療資源の実情を踏まえ、継続的に運用可能な稼働率を70%として最大確保病床数を設定。

(※2)

定員数については関係者と協議中。

(現時点で臨時の医療施設を想定しているが、入院待機施設に変更する可能性がある)

(※3)

具体的な数については、医師会等と調整中。なお、本県では、酸素投与が必要となった場合は基本的に医療機関への入院で対応する方針としている。

自治体名	岩手県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	63名	8月20日
人口10万人当たり	25.9名	8月20日
(2) 療養者数	420名	8月20日
(3) 入院者数	268名	8月20日
うち重症者数	3名	9月1日
(4) 宿泊療養者数	153名	8月22日
(5) 社会福祉施設等療養者数	—	—
(6) 自宅療養者数	—	—
(7) 療養先調整中の人数	26名	8月20日
うち入院先調整中の人数	3名	8月20日
(8) 確保病床数	305床	8月13日
重症者用確保病床数	45床	8月13日
(9) 確保病床利用率	76.6%	8月20日
重症者用確保病床利用率	6%	9月1日
(10) 確保居室数	377室	8月24日
(11) 確保居室利用率	51.0%	8月22日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	1日	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	86名
(2) 最大療養者数	574名
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	43.5%
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>新規感染者数は、今夏の最大新規患者数の1.36倍（今夏の人口・経済規模が同等の隣県（青森県、秋田県）と本県の人口10万人対新規陽性者数の最大値の平均と本県との比）として算定。</p> <p>最大療養者数は、国から示された基準により算定。</p> <p>今夏のピーク時の入院者268人に入院先調整中の3人を含めた入院率は64.5%（(268人+3人)/420人）であるが、7～9月入院者（917人）と、入院者（917人）から9日以内に退院・療養解除となった50歳以下の軽症の患者（299人）を除いた割合（要入院率※）に最大入院率を乗じて積算</p> <p>○要入院者：917人 - 299人 = 618人 ※要入院率618/917=0.674</p> <p>今夏最大入院率×今夏要入院率 = 0.674*0.645 = 0.435</p>	

(3) 最大要入院者数	326名
【算定に当たっての考え方】 今夏の最大入院者数（268人）に、入院先調整中(3人)を加えた271人が実要入院者数。 今夏最大の実要入院者数の2割程度の増を見込み、国から示された基準と比較して算定。 $271人 * 1.2 = 325.2人 > (算定基準 : 574人 * 0.435 * 1.2 = 299.6人)$	
(4) 最大宿泊療養者数	306名
(5) 最大自宅療養者数	0
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	0

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	384
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	33
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	400
うち重症者用病床数	33
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	—
(4) 入院待機施設の必要定員数	—
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	370
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	600
〃 追加で確保が必要な数	— ※1
〃 予定確保期限	—
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	10
〃 追加確保予定数	— ※1
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	27施設 ※2
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	27施設 ※2
〃 訪問看護ステーション等数	—
〃 薬局数	—
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	— ※2

※1 計画上必要数は確保済みであるが、感染状況を見て追加する。

※2 本県では自宅療養を行わず、入院又は宿泊療養施設で療養としている。

ただし、感染が急拡大した際には、早期退所・退院を行い健康観察することとし、治療が必要な場合は入院に対応する医療機関に搬送する。

自治体名	宮城県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	301	8月25日
人口10万人当たり	13.1	8月25日
(2) 療養者数	2,318	8月28日
(3) 入院者数	303	8月23日
うち重症者数	34	9月3日
(4) 宿泊療養者数	820	8月30日
(5) 社会福祉施設等療養者数	6	8月13日
(6) 自宅療養者数	691	8月31日
(7) 療養先調整中の人数	781	8月26日
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	477	9月1日
重症者用確保病床数	50	9月1日
(9) 確保病床利用率	81.0%	8月23日
重症者用確保病床利用率	68.0%	9月3日
(10) 確保居室数	1200	9月1日
(11) 確保居室利用率	71% (852/1200)	8月30日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	6日	8月23日

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	360
(2) 最大療養者数	2,772
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	15%
【算定に当たっての考え方】 社会経済条件等が近似する広島県の状況を踏まえて、係数を設定 →係数①：1.197=85.09(広島県)÷71.08(宮城県)	
(3) 最大要入院者数	444
【算定に当たっての考え方】 県が設定する入院率(15%)÷今夏の最大感染拡大時の入院率(14.7%) →係数②：1.02 今夏と比べた高齢者割合の上昇等による要入院者数2割増を設定 →係数③：1.2	
(4) 最大宿泊療養者数	2328
(5) 最大自宅療養者数	0
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	0

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	511
※念頭に置いた最大病床稼働率	87
うち重症者用病床数	55
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	87
(2) 最大確保病床数	511
うち重症者用病床数	55
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	定員数0 (0施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	定員数0 (0施設)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	2600
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	4198
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	-
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	95
〃 追加確保予定数	4
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	0 (健康観察は保健所職員の増員等に対応)
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	117
〃 訪問看護ステーション等数	4
〃 薬局数	58
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	23 (外来アセスメント受入可能枠)

自治体名	秋田県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	50	8月24日
人口10万人当たり	5.2	
(2) 療養者数	304	8月28日
(3) 入院者数	113	8月22日
うち重症者数	2	
(4) 宿泊療養者数	129	8月28日
(5) 社会福祉施設等療養者数	24	9月4日
(6) 自宅療養者数	0	
(7) 療養先調整中の人数	75	8月26日
うち入院先調整中の人数	7	
(8) 確保病床数	273	8月23日
重症者用確保病床数	22	
(9) 確保病床使用率	61	8月22日
重症者用確保病床使用率	13	
(10) 確保居室数	304	7月1日
(11) 確保居室使用率	42	8月28日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	0	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	72
(2) 最大療養者数	438
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	47
【算定に当たっての考え方】 ・秋田県は今夏人口10万人比で全国最少であったため、社会経済的条件が近似する東北各県の平均値を係数①の参考とした。ただし、宮城県と本県は経済規模に大きな差異があるため除外した。	
(3) 最大要入院者数	210
【算定に当たっての考え方】 ・秋田県は今夏を含め入院待機者はいなかったため係数②は設定しなかった。 ・係数③は国の基準と同じ1.2とした。	
(4) 最大宿泊療養者数	228
(5) 最大自宅療養者数	0
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	0

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	263
※念頭に置いた最大病床稼働率	80
うち重症者用病床数	22
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80
(2) 最大確保病床数	306
うち重症者用病床数	22
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	415
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	380
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	確保済み
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	5
〃 追加確保予定数	10
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	70
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	60
〃 訪問看護ステーション等数	12
〃 薬局数	376
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	180

自治体名	山形県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	69	8月21日
人口10万人当たり	6.4	
(2) 療養者数	460	8月23日
(3) 入院者数	123	8月25日
うち重症者数	7	8/14, 15, 18
(4) 宿泊療養者数	67	8月24日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	
(6) 自宅療養者数	237	8月23日
(7) 療養先調整中の人数	66	8月21日
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	237	
重症者用確保病床数	26	
(9) 確保病床使用率	51.89%	8月25日
重症者用確保病床使用率	26.92%	8/14, 15, 18
(10) 確保居室数	134	8月24日
(11) 確保居室使用率	50.00%	
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	1	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	98
(2) 最大療養者数	653
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	26.7%
【算定に当たっての考え方】 陽性者数：今夏の最大新規陽性者数は69人であるが、東北各県の状況を考慮し、前回の最大感染者想定人数を使用 療養者数：今夏の実数を踏まえ算定 入院率：今夏の実績から算定	
(3) 最大要入院者数	210
【算定に当たっての考え方】療養者の入院率を26.7%とし、今夏に比べ入院患者の受入れを2割増とし、算定。（最大療養者数×26.7%×1.2）	
(4) 最大宿泊療養者数	180
(5) 最大自宅療養者数	283
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	19

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	263
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	21
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	237
うち重症者用病床数	26
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	30
(4) 入院待機施設の必要定員数	30(臨時の医療施設の必要定員数としても計上)
(5) 最大確保居室数(宿泊療養施設)	348
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	950
〃 追加で確保が必要な数	—
〃 予定確保期限	—
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	—
〃 追加確保予定数	—
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	129
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	210((8)と重複あり)
〃 訪問看護ステーション等数	—
〃 薬局数	266
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	19

自治体名	福島県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況 (P10)		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	230	8/11
人口10万人当たり	12.46	8/11
(2) 療養者数	1,057	8/14
(3) 入院者数	440	8/14
うち重症者数	20	8/20,8/21,8/22日,9/1
(4) 宿泊療養者数	177	8/1,8/2
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	-
(6) 自宅療養者数	442	8/20
(7) 療養先調整中の人数	97	8/11
うち入院先調整中の人数	41	8/11
(8) 確保病床数	637	8/18~
重症者用確保病床数	49	7月以前
(9) 確保病床使用率	67.84%	8/9
重症者用確保病床使用率	44.44%	8/20,8/21,8/22日,9/1
(10) 確保居室数	503	9/1~
(11) 確保居室使用率	63.90%	8/1,8/2
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	0	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	257
(2) 最大療養者数	1,700
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	35%
【算定に当たっての考え方】 今夏の実績値で中等症以上の患者を入院対応（28.1%）とし、それに高齢者の増加による影響（2割増）を加味するなどして35%とする。	
(3) 最大要入院者数	600
【算定に当たっての考え方】 最大療養者数に入院率を乗じた数値	
(4) 最大宿泊療養者数	600
(5) 最大自宅療養者数	500
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	50

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	750
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	49
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	750
うち重症者用病床数	49
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0
(4) 入院待機施設の必要定員数	定員数24名（3施設程度）
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	600
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	4,502
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	-
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	45
〃 追加確保予定数	0
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	200
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	400
〃 訪問看護ステーション等数	18か所
〃 薬局数	350
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	500

自治体名	茨城県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	391	8月14日
人口10万人当たり	78	8月23日
(2) 療養者数	2,522	8月25日
(3) 入院者数	499	8月27日
うち重症者数	32	8月29日
(4) 宿泊療養者数	299	9月8日
(5) 社会福祉施設等療養者数	4	9月2日
(6) 自宅療養者数	1,801	8月25日
(7) 療養先調整中の人数	0	
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	791	9月1日～
重症者用確保病床数	70	令和2年7月22日～
(9) 確保病床使用率	76%	8月15日
重症者用確保病床使用率	46%	8月29日
(10) 確保居室数	1,020	9月10日
(11) 確保居室使用率	65%	8月19日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	1日 (陽性判明の翌日)	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	319
(2) 最大療養者数	2,522
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	12%
【算定に当たっての考え方】 ・第5波において本県では、週平均陽性者数は最大319名、療養者数は最大2,522名に達した。 ・第6波は第5波と同規模（ワクチンによる抑制と第5波の2倍の感染力が概ね相殺）と想定し、各数値を算出した。	
(3) 最大要入院者数	744
【算定に当たっての考え方】 ・入院率を第5波到来前の約30%と仮定したとき、上記で想定した療養者2,522名に対し、744名の入院患者に対応できる体制を整備する。 ※病床稼働率は最大85%とし、必要病床数は876床。 ・当該病床数を確保することにより、第6波が今般の想定を上回る事態であっても、入院率12%の状況（第5波のピーク時において、仮に重症及び中等症患者のみが入院している状況）まで対応できる。	
(4) 最大宿泊療養者数	1,000
(5) 最大自宅療養者数	778
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	75

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	877
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	39
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	877
うち重症者用病床数	80
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	61
(4) 入院待機施設の必要定員数	7
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	1,495
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	10,250
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	—
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	100
〃 追加確保予定数	—
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	141
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	141
〃 訪問看護ステーション等数	5
〃 薬局数	995
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	778

自治体名	栃木県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	260	8/18、8/21
人口10万人当たり	13	8/18、8/21
(2) 療養者数	1,939	8/25
(3) 入院者数	290	8/24
うち重症者数	22	8/20、8/22、8/23
(4) 宿泊療養者数	234	7/31
(5) 社会福祉施設等療養者数	28	8/10
(6) 自宅療養者数	1,495	8/27
(7) 療養先調整中の人数	453	8/14
うち入院先調整中の人数	0	-
(8) 確保病床数	502	9/28
重症者用確保病床数	46	12/26~
(9) 確保病床使用率	62.9%	8/24
重症者用確保病床使用率	47.8%	8/20、8/22、8/23
(10) 確保居室数	725	9/17
(11) 確保居室使用率	54.7%	7/31
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	1	8/18

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	339人
(2) 最大療養者数	2,070人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	20.3%
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>今夏の最大入院者数（実績）に、速やかな入院による受療の必要性があった患者数（実態）を加味し、国の基準に従い2割増加させた最大要入院者数を推計し入院率を算出。</p> <p><重点項目：ピーク時の要入院者数(実態)></p> <p>○ピーク時の要入院者数（実態）：350人程度 →最大入院者数290人(8/24)+60人程度（宿泊療養者・自宅療養者のうち、速やかな入院による受療の必要性があった患者数）</p> <p>○要入院者数の増（2割増） →350人×1.2=420人：本県の最大要入院者数</p> <p>○入院率 →420/最大療養者数（2,070人）=20.3%</p>	

(3) 最大要入院者数	420人
<p>【算定に当たっての考え方】 今夏の最大入院者数（実績）に、速やかな入院による受療の必要性があった患者数（実態）を加味し、国の基準に従い2割増加させた最大要入院者数を推計。 <重点項目：ピーク時の要入院者数(実態)> ○ピーク時の要入院者数（実態）：350人程度 →最大入院者数290人(8/24)+60人程度（宿泊療養者・自宅療養者のうち、速やかな入院による受療の必要性があった患者数） ○要入院者数の増（2割増） →350人×1.2=420人：本県の最大要入院者数</p>	
(4) 最大宿泊療養者数	500人
(5) 最大自宅療養者数	1,150人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	81人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	525床
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	33床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	530床（調整中）
うち重症者用病床数	46床（調整中）
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	最大100名程度（複数施設）
(4) 入院待機施設の必要定員数	上記に含む
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	725
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	2,200
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	-
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	17
〃 追加確保予定数	123
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	医療機関によるオンライン診療（26医療機関） 訪問看護事業所による健康観察（30事業所）
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	40
〃 訪問看護ステーション等数	26
〃 薬局数	134
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	81人（有症状自宅療養者数の見込）

自治体名	群馬県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	367	8月28日
人口10万人当たり	101.49	8月24日
(2) 療養者数	2,856	8月28日
(3) 入院者数	370	8月22日
うち重症者数	31	9月5日
(4) 宿泊療養者数	492	9月4日
(5) 社会福祉施設等療養者数	27	8月17日
(6) 自宅療養者数	498	8月27日
(7) 療養先調整中の人数	1,764	8月24日
うち入院先調整中の人数	20	8月28日
(8) 確保病床数	472	9月1日
重症者用確保病床数	76	9月1日
(9) 確保病床利用率	78.4	8月22日
重症者用確保病床利用率	40.80%	9月5日
(10) 確保居室数	1300	9月1日
(11) 確保居室利用率	37.80%	9月4日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	3	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	367
(2) 最大療養者数	2,856
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	12.60%
【算定に当たっての考え方】 第5波のピーク時と同程度	
(3) 最大要入院者数	468
【算定に当たっての考え方】 (第5波のピーク時の入院患者数+入院調整中人数) × 1.2倍	
(4) 最大宿泊療養者数	960
(5) 最大自宅療養者数	1,428
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	143(うち急変15)

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	551
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	47
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	552
うち重症者用病床数	76
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0
(4) 入院待機施設の必要定員数	5(酸素ステーション)
(5) 最大確保居室数(宿泊療養施設)	1650
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	4,252
〃 追加で確保が必要な数	3,650
〃 予定確保期限	12月31日
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	5
〃 追加確保予定数	27
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	25
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	100
〃 訪問看護ステーション等数	0
〃 薬局数	50
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	1,500

自治体名	埼玉県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	2,169	8月19日
人口10万人当たり	30	8月19日
(2) 療養者数	22,384	8月22日
(3) 入院者数	1,354	9月4日
うち重症者数	152	9月4日
(4) 宿泊療養者数	681	8月21日
(5) 社会福祉施設等療養者数	-	
(6) 自宅療養者数	15,471	8月22日
(7) 療養先調整中の人数	5,258	8月19日
うち入院先調整中の人数	10	8月19日
(8) 確保病床数	1,832	9月1日
重症者用確保病床数	235	9月1日
(9) 確保病床利用率	72.4%	8月21日
重症者用確保病床利用率	78.9%	8月28日
(10) 確保居室数	2,523	9月1日
(11) 確保居室利用率	40.2%	8月5日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	4	8月16日

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	2,338
(2) 最大療養者数	24,128
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	7.7%
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>○ 当県は、人口に比して病床数が少なく（人口10万人当たり508.8床）、入院調整の迅速化等に努めた。</p> <p>○ 一方で、第5波(今夏)の新規陽性者はそれまでの最大の新規陽性者数であった第3波の時と比べ約4倍であったが、48時間を超えて入院先調整中の人数はピーク時で第3波の時は20人、第5波の時は10人と減少している。</p> <p>○ また、7月時点でワクチンの接種割合が7割を超えていた65歳以上の新規陽性者を7月と第3波の1月と比較すると7割減少している。こうしたワクチンの効果に加え、抗体カクテル療法を実施する医療機関の増加（83→121）により、重症化リスクは減少している状況である。</p> <p>○ こうしたことを踏まえ、国が示した方式で推計を行ったところ、最大要入院者数については、今夏のピーク時の1.4倍と見込んでいる。（入院率に直すと7.7%）</p>	

(3) 最大要入院者数	1,850
【算定に当たっての考え方】 ○ 今夏と比べて、とくにワクチン接種が高齢者以外に進むことが想定されるため、感染者全体の中での高齢者割合の増加を想定し、2割の要入院者数の増加を見込む。	
(4) 最大宿泊療養者数	1,262
(5) 最大自宅療養者数	21,016
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	2,102

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	2,176
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	236
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	1,948
うち重症者用病床数	236
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	228(14施設以上) ※医療機能を強化した宿泊療養施設を含む
(4) 入院待機施設の必要定員数	60床 (酸素st : 4 施設×15床)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	2,523室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	61,738
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	-
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	ホテル : 130個 酸素st : 60個
〃 追加確保予定数	ホテル : 10個
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	555 + 民間事業者 (2社)
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	555 + 民間事業者 (2社)
〃 訪問看護ステーション等数	14
〃 薬局数	300
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	2,102

自治体名	千葉県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	1777人	8月20日
人口10万人当たり	28.39人	
(2) 療養者数	14103人	8月29日
(3) 入院者数	1089人	8月29日
うち重症者数	95人	
(4) 宿泊療養者数	499人	7月21日
(5) 社会福祉施設等療養者数	— ※千葉県では、当該項目を自宅療養者数に含めて統計をとっており、個別に記載することはできません。	
(6) 自宅療養者数	10841人	8月25日
(7) 療養先調整中の人数	1492人	8月25日
うち入院先調整中の人数	140人	8月25日
(8) 確保病床数	1495床	9月30日
重症者用確保病床数	148床	9月6日～30日
(9) 確保病床使用率	80.1%	8月22日
重症者用確保病床使用率	84.1%	8月26日・27日
(10) 確保居室数	1390室	9月27日
(11) 確保居室使用率	49.3%	7月21日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	7日	8月下旬

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	1777人
(2) 最大療養者数	14103人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	10.5%
【算定に当たっての考え方】	
・ 国の「新規感染者数等の見込み方」により示された数式を使用。（要入院者数について、2割増を想定）	
(3) 最大要入院者数	1475人
【算定に当たっての考え方】	
・ 国の「新規感染者数等の見込み方」により示された数式を使用。（要入院者数について、2割増を想定）	
(4) 最大宿泊療養者数	1200人
(5) 最大自宅療養者数	11428人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	1143人
③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	1736床
※念頭に置いた最大病床稼働率	85.0%
うち重症者用病床数	80床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85.0%
(2) 最大確保病床数	1736床 ※公的病院において最低でも全国平均並プラス2割以上増の積極的な関与が得られることが前提 ※うち約200床は臨時の医療施設の定員数としても計上
うち重症者用病床数	156床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	約200床（複数施設） ※宿泊療養施設の臨時医療施設化等による上積みを検討
(4) 入院待機施設の必要定員数	16床（2施設）
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	2000室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	37962台
〃 追加で確保が必要な数	0台
〃 予定確保期限	—
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	185台
〃 追加確保予定数	105台
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	1264 ※発熱外来として登録されている医療機関数を記載 ※医療機関数は予定であり、同意は調整中
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	583
〃 訪問看護ステーション等数	193
〃 薬局数	2523 ※保険指定薬局数（R3.9.1現在）を記載 （関東信越厚生局ホームページより）
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	12000人

自治体名	東京都
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	4,923人	8月19日
人口10万人当たり	247.6人	8月19日
(2) 療養者数	46,616人	8月21日
(3) 入院者数	4,351人	9月4日
うち重症者数	297人	8月28日
(4) 宿泊療養者数	2,197人	9月2日
(5) 社会福祉施設等療養者数	94人	8月25日
(6) 自宅療養者数	26,409人	8月21日
(7) 療養先調整中の人数	14,726人	8月22日
うち入院先調整中の人数	530人	8月11日
(8) 確保病床数	6,406床	9月1日
重症者用確保病床数	465床 (国基準1,207床)	9月1日
(9) 確保病床使用率	71.2%	8月31日
重症者用確保病床使用率 ※重症者数 (都基準) / 重症者用確保病床数 (都基準)	75.8% (国基準98.8%)	8月28日
(10) 確保居室数	3,370室	9月1日
(11) 確保居室使用率	65.2%	9月2日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	5日 ※複数保健所への聞き取り結果による	—

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	4,923人
(2) 最大療養者数	46,616人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	10%
【算定に当たっての考え方】 今夏の最大感染拡大時の入院率は8.5%であるところ、入院待機者の状況等を総合的に勘案し、10%とした。	

(3) 最大要入院者数	5,857人
【算定に当たっての考え方】 最大療養者数 (46,616人)	
$\times \frac{\text{入院者数 (4,351人) + 入院待機者等 (530人)}}{\text{最大療養者数 (46,616人)}}$	
$\times 1 \text{ (係数②)}$	
$\times \text{高齢者割合の上昇等による要入院者の増加 (20\%) (係数③) =5,857人}$	
(4) 最大宿泊療養者数	4,500人
(5) 最大自宅療養者数	36,259人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	3,626人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保

※本表の最大必要病床数、確保病床数、臨時の医療施設の定員、宿泊療養施設の室数、パルスオキシメーター等必要な機器の数などについては調整中であり、現在確保している最大値を掲載している。今後、これらを充実強化し、それを元に方針を定めていく。

(1) 最大必要病床数	6,891床
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	400床 (国基準1,200床)
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	100%
(2) 最大確保病床数 (今後確保のものも含む)	6,891床
うち重症者用病床数	503床 (国基準1,207床)
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	720床 (10施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	46床 (3施設)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	4,500室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	98,000台
〃 追加で確保が必要な数	108,400台
〃 予定確保期限	11月中旬予定
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	760台
〃 追加確保予定数	240台
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	1,000か所
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	1,210か所
〃 訪問看護ステーション等数	210か所
〃 薬局数	800か所
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	3,750人

※国立病院機構 東京病院が臨時の医療施設の整備を検討中 (調整中)

本表の最大必要病床数、確保病床数、臨時の医療施設の定員、宿泊療養施設の室数、パルスオキシメーター等必要な機器の数などについては調整中であり、現在確保している最大値を掲載している。今後、これらを充実強化し、それを元に方針を定めていく。

自治体名	神奈川県
------	------

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	2,878	8月20日
人口10万人当たり	31.21	8月20日
(2) 療養者数	18,438	8月27日
(3) 入院者数	1,704	8月26日
うち重症者数	249	8月26日
(4) 宿泊療養者数	862	8月22日
(5) 社会福祉施設等療養者数	36	8月17日
(6) 自宅療養者数	16,060	8月27日
(7) 療養先調整中の人数	938	8月24日
うち入院先調整中の人数	5	8月17日、24日
(8) 確保病床数	2,300	9月24日以降
重症者用確保病床数	270	9月24日以降
(9) 確保病床利用率	95.2%	8月26日
重症者用確保病床利用率	96.4%	8月12日
(10) 確保居室数	2,851	8月27日以降
(11) 確保居室利用率	45%	8月2日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	3	8月27日

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	2,878
(2) 最大療養者数	18,438
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	10.11%
【算定に当たっての考え方】 (【最大入院者数】1,693人 + 【入院待機者数】86人) ÷ 17,597人 × 100 = 10.11% ※最大入院者数及び入院待機者素については、「入院者数 + 入院待機者数」が最大であった8月24日の人数を採用した。	

(3) 最大要入院者数	2,133
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>【最大療養者数】 18,438人 × (【最大入院者数】 1,693人 / 【最大療養者数】 18,438人) × 【係数②】 1 × 【係数③】 1.2 = 2,133人</p> <p>※ 【係数②】 = (都道府県が設定する入院率) 10.11% ÷ (今夏の最大感染拡大時の入院率) 9.62%</p> <p>(都道府県が設定する入院率) = (最大入院者数1,693人 + 入院待機者数86人) ÷ 今夏最大感染拡大時の療養者数17,597人</p> <p>(今夏最大感染時の入院率) = 「入院者数 + 入院待機者数」が最大であった8月24日の入院率</p> <p>【係数③】 = 厚労省の1.2倍を固定</p>	
(4) 最大宿泊療養者数	2,138
(5) 最大自宅療養者数	14,167
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	1,416

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	2,500
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	272
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	2,500 (うち180は臨時の医療施設の定員数としても計上)
うち重症者用病床数	272
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	180 (1施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	24 (2施設)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	2,851
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	93,650
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	—
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	358
〃 追加確保予定数	56
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	911
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	911
〃 訪問看護ステーション等数	84
〃 薬局数	363
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	1,358

自治体名	新潟県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	159	8月25日
人口10万人当たり	7.15	8月25日
(2) 療養者数	1,268	8月29日
(3) 入院者数	277	8月29日
うち重症者数	11	9月4日、5日
(4) 宿泊療養者数	75	8月4日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	
(6) 自宅療養者数	923	8月29日
(7) 療養先調整中の人数	0	8月26日
うち入院先調整中の人数	0	8月26日
(8) 確保病床数	555	常時
重症者用確保病床数	112	常時
(9) 確保病床利用率	49.90%	8月29日
重症者用確保病床利用率	9.82%	9月4日、5日
(10) 確保居室数	300	常時
(11) 確保居室利用率	25%	8月4日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	0	常時

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	191
(2) 最大療養者数	1,523
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	30%
【算定に当たっての考え方】	
<ul style="list-style-type: none"> ・(1)は今夏の1.2倍を想定。また、関東を除く隣県の感染状況も踏まえても1.2倍が適切と考えた。 ・(2)は厚労省推計ツールを使用した。 ・入院率は、感染拡大ピーク時であっても本県では30%以上とすることが目標のため。 	
(3) 最大要入院者数	547
【算定に当たっての考え方】	
厚労省の推計ツールを使用した。	
(4) 最大宿泊療養者数	340
(5) 最大自宅療養者数	636
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	64

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	644
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	79
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	70%
(2) 最大確保病床数	666
うち重症者用病床数	112
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	定員数10～20 (1施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	定員数10～20 (1施設)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	400
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	2,800
〃 追加で確保が必要な数	500
〃 予定確保期限	令和3年12月
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	1
〃 追加確保予定数	19
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	142
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	142
〃 訪問看護ステーション等数	5
〃 薬局数	263
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	636

自治体名	富山県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	147	8月19日
人口10万人当たり	14	
(2) 療養者数	1,233	8月28日
(3) 入院者数	264	8月23日
うち重症者数	18	9月2日
(4) 宿泊療養者数	146	8月9日
(5) 社会福祉施設等療養者数	12	8月24日
(6) 自宅療養者数	860	8月28日
(7) 療養先調整中の人数	0	
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	442	9月1日
重症者用確保病床数	36	9月1日
(9) 確保病床利用率	59.7	8月23日
重症者用確保病床利用率	50	9月2日
(10) 確保居室数	500	8月27日
(11) 確保居室利用率	58.4	8月9日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	1	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	155
(2) 最大療養者数	1,300
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	20%
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>本県の人口10万人対新規陽性者数の最大値は社会経済的条件等が近似する隣県に比較して高いことから、1日当たり最大新規陽性者数を、本県の人口に最も近い宮崎県の数値を近似するものとして、厚生労働省が示す計算式により算定し、最大療養者数も同計算式により算定</p>	

(3) 最大要入院者数	334
【算定に当たっての考え方】 入院率は今夏の最大感染拡大時の入院率と同率の20%、要入院者数の増加を2割として、厚生労働省の計算式により算定	
(4) 最大宿泊療養者数	500
(5) 最大自宅療養者数	466
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	47

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	418
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	27
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	536
うち重症者用病床数	36
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	定員数0(3施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数(宿泊療養施設)	625
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	955
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	-
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	0
〃 追加確保予定数	0
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	0
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	0
〃 訪問看護ステーション等数	0
〃 薬局数	0
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	0

自治体名	石川県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	92 (7日間平均)	8月1日
人口10万人当たり	57	8月1日
(2) 療養者数	939	8月5日
(3) 入院者数	259	8月7日
うち重症者数	11	8月7日
(4) 宿泊療養者数	181	7月30日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	-
(6) 自宅療養者数	384	8月8日
(7) 療養先調整中の人数	296	8月5日
うち入院先調整中の人数	0	-
(8) 確保病床数	447	9月29日～
重症者用確保病床数	39	全期間
(9) 確保病床使用率	59.5%	8月7日
重症者用確保病床使用率	30.8%	8月11日
(10) 確保居室数	560	全期間
(11) 確保居室使用率	32.3%	7月30日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	当日中	全期間

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	120
(2) 最大療養者数	1221
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	28.8%
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>①8月の新規感染者総数のうち、入院が必要と判断された患者は約3割</p> <p>②国が示した係数1.2により入院者数の増加を見込む</p> <p>③全ての患者の平均療養日数は約10日であるが、入院患者の在院日数については、軽快後の早期退院や抗体カクテル療法の実施により約8日（9月の実績）となっていることを加味（8日/10日=0.8）</p> <p>以上により、療養者数に占める入院者数の割合は、28.8%（①30%×②1.2×③0.8）</p>	
(3) 最大要入院者数	352人
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>最大療養者数1,221人×入院率28.8%</p>	
(4) 最大宿泊療養者数	330人
(5) 最大自宅療養者数	539人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	54人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	400床
※念頭に置いた最大病床稼働率	88%
うち重症者用病床数	18床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	88%
(2) 最大確保病床数	472
うち重症者用病床数	39
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0床
(4) 入院待機施設の必要定員数	0床
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	560室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1517
〃 追加で確保が必要な数	300
〃 予定確保期限	12月末
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	40
〃 追加確保予定数	0
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	28
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	100
〃 訪問看護ステーション等数	0
〃 薬局数	131
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	100以上

自治体名	福井県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	56	8/25
人口10万人当たり	7.3	8/25
(2) 療養者数	323	8/28,8/29
(3) 入院者数	223	8/28
うち重症者数	2	8/13~8/19,9/2~9/9,9/29
(4) 宿泊療養者数	101	8/29,8/30
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	
(6) 自宅療養者数	0	
(7) 療養先調整中の人数	0	
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	424	8/30~
重症者用確保病床数	24	7/20~
(9) 確保病床利用率	55.2%	8/28
重症者用確保病床利用率	8.3%	8/13~8/19,9/2~9/9,9/29
(10) 確保居室数	216	9/28~
(11) 確保居室利用率	69.2%	8/29,8/30
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	1	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	108.64
(2) 最大療養者数	627
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	45%
【算定に当たっての考え方】	
(1) 最大新規陽性者数実績値56人(8/25) × 人口10万人対新規陽性者数7日間合計最大値(富山)74.43人 ÷ 同(福井)38.28人	
(2) (1) × 最大感染拡大時の療養者数実績値323人(8/28) ÷ 最大新規陽性者数実績値56人(8/25)	
(3) 最大要入院者数	333.7
【算定に当たっての考え方】	
(3) (2) × 今夏の最大感染拡大時の入院者数実績223人(8/28) ÷ 今夏の最大感染拡大時の療養者数実績値323人 × 入院設定率45% ÷ 入院率実績値70%(8/28) × 要入院患者数増加率係数1.2	
(4) 最大宿泊療養者数	292.9
(5) 最大自宅療養者数	0
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	0

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	392.6
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	10
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	424 (うち100は臨時の医療施設の定員数としても計上)
うち重症者用病床数	24
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	100 (1施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	316
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	769
// 追加で確保が必要な数	0
// 予定確保期限	0
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	20
// 追加確保予定数	0
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	0
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	0
// 訪問看護ステーション等数	0
// 薬局数	0
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	0

自治体名	山梨県
------	-----

※ 本県の場合、発生直後からの自宅療養は行っておらず、重点医療機関等又は宿泊療養施設で療養し、一定の基準を満たした患者を自宅に移行する「退所後ケア」の運用を行っているため、下記表中の自宅療養関係の数字は「-」としている。

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	103 人	8月20日
人口10万人当たり	12.71 人	8月20日
(2) 療養者数	715 人	8月24日
(3) 入院者数	250 人	8月22日
うち重症者数	4 人	9月8日
(4) 宿泊療養者数	474 人	8月24日
(5) 社会福祉施設等療養者数	8 人	8月29日～9月2日
(6) 自宅療養者数	-	-
(7) 療養先調整中の人数	0 人	-
うち入院先調整中の人数	0 人	-
(8) 確保病床数	367 床	8月24日 ～
重症者用確保病床数	24 床	7月1日 ～
(9) 確保病床使用率	81.97 %	8月22日
うち 重症者用確保病床使用率	16.67 %	9月8日
(10) 確保居室数	806 室	9月22日
(11) 確保居室使用率	88.43 %	8月24日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	1 日	-

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	150
(2) 最大療養者数	1,046
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	20%
【算定に当たっての考え方】 ○ 厚生労働省から提示のあった推計の考え方をもとに(1)(2)を算出。 ・ 1日あたりの新規感染者数は、社会経済的条件等が近似する団体を本県の人口、社会経済状況、立地状況(大都市に近接)を踏まえ、奈良県、佐賀県の2団体を設定して算出。	

(3) 最大要入院者数	274
【算定に当たっての考え方】 ○ 厚生労働省からの提示のあった推計の考え方をもとに算出。 ・ 算出するに必要な各都道府県が設定する入院率は、次の理由により、2割と設定。 (理由) 今夏のピーク時後に稼働を開始した医療強化型宿泊療養施設（臨時の医療施設）2施設（合計479室）を考慮 ワクチン接種・中和抗体薬（ロナプリーブ）投与による重症化予防効果を考慮	
(4) 最大宿泊療養者数	772
(5) 最大自宅療養者数	0
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	0

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	334
※念頭に置いた最大病床稼働率	81.97
うち重症者用病床数	20
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	81.97
(2) 最大確保病床数	376
うち重症者用病床数	24
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	479（2施設、確保居室数と重複）
(4) 入院待機施設の必要定員数	-
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	966（臨時の医療施設479を含む）
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1,550
〃 追加で確保が必要な数	-
〃 予定確保期限	-
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	15
〃 追加確保予定数	-
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	-
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	-
〃 訪問看護ステーション等数	-
〃 薬局数	-
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	-

自治体名	長野県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	158人	8月18日
人口10万人当たり	7.7人	8月18日
(2) 療養者数	1,107人	8月27日
(3) 入院者数	279人	8月29日
うち重症者数	7人	8月30日
(4) 宿泊療養者数	331人	8月19日
(5) 社会福祉施設等療養者数	2人	8/22～9/25
(6) 自宅療養者数	406人	8月28日
(7) 療養先調整中の人数	245人	8月27日
うち入院先調整中の人数	0人	-
(8) 確保病床数	529床	9月9日から
重症者用確保病床数	43床	9月9日から
(9) 確保病床利用率	55.7%	8月29日
重症者用確保病床利用率	16.7%	8月30日
(10) 確保居室数	806室	9月8日から
(11) 確保居室利用率	63.3%	8月19日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	1日 <small>(原則当日。夜間判明時は翌朝連絡する場合がある)</small>	-

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	226人
(2) 最大療養者数	1,583人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	30.3%
【算定に当たっての考え方】	
最大療養者数 = 1日当たり最大新規陽性者数 × (今夏の療養者数の最大値 / 今夏の新規陽性者数の最大値)	
1日当たり最大新規陽性者数は今夏の最大値の1.4282倍 [*] 生じると見込む	
※首都圏の影響を同程度受ける6県の今夏の最大値の平均を利用して算出(6県=群馬、新潟、富山、石川、山梨、長野)	
(人口10万人あたりの新規陽性者数の6県平均 61.9人 / 長野県 43.34人 = 1.4282)	
(3) 最大要入院者数	479人
【算定に当たっての考え方】	
最大療養者数 × (今夏の入院者数の最大値 / 今夏の療養者数の最大値) × 高齢者の感染割合の上昇分 [*]	
※高齢者の感染割合の上昇分を2割見込む	
(4) 最大宿泊療養者数	644人
(5) 最大自宅療養者数	460人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	46人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	599床
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	15床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	608床 (確保病床529床 + 緊急的対応病床79床)
うち重症者用病床数	43床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0人
(4) 入院待機施設の必要定員数	0人
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	916室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1,750台
〃 追加で確保が必要な数	0台
〃 予定確保期限	0台
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	0台
〃 追加確保予定数	0台
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	51か所 (入院による)
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	51か所 (入院による)
〃 訪問看護ステーション等数	0か所
〃 薬局数	51か所 (入院時の院内処方)
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	365人 (入院による)

自治体名	岐阜県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	384	8月26日
人口10万人当たり	114.01	8月30日
(2) 療養者数	2861	8月29日
(3) 入院者数	544	8月30日
うち重症者数	24	9月5日
(4) 宿泊療養者数	975	8月24日
(5) 社会福祉施設等療養者数	—	—
(6) 自宅療養者数	932	8月28日
(7) 療養先調整中の人数	757	8月26日
うち入院先調整中の人数	0	8月26日
(8) 確保病床数	859	9月28日
重症者用確保病床数	59	9月28日
(9) 確保病床利用率	69.48%	8月30日
重症者用確保病床利用率	40.68%	9月5日
(10) 確保居室数	1045	8月24日
(11) 確保居室利用率	93.30%	8月24日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	1	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	384
(2) 最大療養者数	2861
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	18.30%
【算定に当たっての考え方】今夏の感染拡大時の実績値と同数とした。	
(1) 今夏の最大感染拡大時の新規陽性者数の実績値 384人 × 係数① 1 = 384人	
(2) 上記(1) 384人 × (今夏の最大感染拡大時の実績値 療養者数 2861人 ÷ 新規陽性者数 384人) = 2861人	
(3) 最大要入院者数	684
【算定に当たっての考え方】	
若者のワクチン接種が進み、陽性者に占める高齢者の割合が2割増加し、要入院者も2割増となる想定。	
上記(2) 2861人 × $\frac{(\text{今夏の最大感染拡大時の入院者数 } 544\text{人} + \text{同日の入院待機者数 } 26\text{人}) \times \text{係数② } 18.30\%}{(\text{今夏の最大感染拡大時の療養者数の実績値 } 2861\text{人}) \times \text{係数③ } 18.30\%}$ × 係数③ 今夏と比べた要入院者数の増加割合 1.2 = 684人	

(4) 最大宿泊療養者数	1591
(5) 最大自宅療養者数	0※
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	0※

※自宅療養はあくまで緊急避難であり、可能な限り「自宅療養者ゼロ」を堅持することを基本方針とし、新たに陽性となった方については、一両日中に入院・入所調整を行うとともに、入院・入所調整中となる方については、必要に応じてパルスオキシメーター等を配布し、それまでの間、健康観察を行います。

③想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 最大必要病床数	855
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	58
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	50%
(2) 最大確保病床数	882
うち重症者用病床数	59
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	20 (施設数1) (うち20は入院待機施設の必要定員数としても計上)
(4) 入院待機施設の必要定員数	24 (施設数2) (うち20は臨時の医療施設の必要定員数としても計上)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	1619 (うち2室は入院待機施設の必要定員数としても計上)
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	9724
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	—
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	46
〃 追加確保予定数	20
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	0
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	286
〃 訪問看護ステーション等数	48
〃 薬局数	361
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	932

自治体名	静岡県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	675	8月19日
人口10万人当たり	18.5	
(2) 療養者数	5,498	8月27日
(3) 入院者数	463	9月2日
うち重症者数	37	8月29日
(4) 宿泊療養者数	421	8月12日
(5) 社会福祉施設等療養者数	75	9月5日
(6) 自宅療養者数	4,292	8月29日
(7) 療養先調整中の人数	387	8月25日
うち入院先調整中の人数	19	8月16日ほか
(8) 確保病床数	719	9月30日
重症者用確保病床数	68	9月7日
(9) 確保病床使用率	73.1%	8月27日
重症者用確保病床使用率	64.9%	8月29日
(10) 確保居室数	870	9月15日以降
(11) 確保居室使用率	57.3%	8月12日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	2	8月中下旬

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	680
(2) 最大療養者数	5,500
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	10.0%
【算定に当たっての考え方】 国事務連絡で示されている緊急事態宣言対象となった21都道府県の平均値	
(3) 最大要入院者数	660
【算定に当たっての考え方】 最大療養者数×10%×1.2倍(2割増)	
(4) 最大宿泊療養者数	700
(5) 最大自宅療養者数	4,140
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	420

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	825
※念頭に置いた最大病床稼働率	80.0%
うち重症者用病床数	66
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80.0%
(2) 最大確保病床数	750
うち重症者用病床数	68
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	75【3施設】
(4) 入院待機施設の必要定員数	75【3施設】（(3)としても計上）
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	954 （うち75は(3)としても計上）
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	8,058
// 追加で確保が必要な数	2,000
// 予定確保期限	11月末
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	49
// 追加確保予定数	26
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	250以上
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	210以上
// 訪問看護ステーション等数	—
// 薬局数	43以上（1市町（政令市は区ごと）1箇所以上）
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	420人/日以上

自治体名	愛知県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	2,339人	8月27日
人口10万人当たり	31.04人	8月27日
(2) 療養者数	22,083人	9月7日
(3) 入院者数	1,055人	9月6日
うち重症者数	97人	9月7日
(4) 宿泊療養者数	786人	9月12日
(5) 社会福祉施設等療養者数	61人	9月21日
(6) 自宅療養者数	19,178人	9月7日
(7) 療養先調整中の人数	2,358人	8月27日
うち入院先調整中の人数	22人	8月7日
(8) 確保病床数	1,722床	9月10日
重症者用確保病床数	183床	9月10日
(9) 確保病床利用率	64.8%	9月6日
重症者用確保病床利用率	57.1%	9月7日
(10) 確保居室数	1,628室	9月15日
(11) 確保居室利用率	51.9%	9月12日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	3日	-

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	2,339人
(2) 最大療養者数	22,083人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	8.1%
【算定に当たっての考え方】 本県のこれまでの実績と他都道府県の状況を勘案し決定	
(3) 最大要入院者数	2,154人
今夏で最大入院者数となった9/6の実数から計算 (9/6最大入院者数 1,055人 + 同日入院調整者数 9人) × 係数②8.1%((2)(2)から)/4.8%(9/6実績) × 係数③1.2 = 2,154人	
(4) 最大宿泊療養者数	1,331人
(5) 最大自宅療養者数	18,598人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	1,859人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	2,534床
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	230床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	2,105床
うち重症者用病床数	230床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	429人
(4) 入院待機施設の必要定員数	定員20人（1施設）
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	1,628室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	19,725個
〃 追加で確保が必要な数	－
〃 予定確保期限	－
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	44台
〃 追加確保予定数	－
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	665施設
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	665施設
〃 訪問看護ステーション等数	101施設
〃 薬局数	3,519施設
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	2,660人

自治体名	三重県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	515	8月26日
人口10万人当たり	29.1	8月26日
(2) 療養者数	3170	8月28日
(3) 入院者数	323	9月6日
うち重症者数	33	9月3日
(4) 宿泊療養者数	116	8月14日
(5) 社会福祉施設等療養者数	21	9月4日
(6) 自宅療養者数	2790	8月28日
(7) 療養先調整中の人数	0	
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	513	9月13日
重症者用確保病床数	61	9月13日
(9) 確保病床利用率	69.2	9月6日
重症者用確保病床利用率	61.1	9月3日
(10) 確保居室数	259	8月24日
(11) 確保居室利用率	48.3	8月14日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	8	8月25日 8月27日

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	515
(2) 最大療養者数	3170
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	10%
【算定に当たっての考え方】 今夏の最大感染拡大時において、入院患者（入院待機者を含む）の合計が療養者全体に占める割合は、緊急事態宣言対象となった21都道府県の平均で約10%であったため。	
(3) 最大要入院者数	461
【算定に当たっての考え方】 高齢者割合の上昇等による要入院患者数の増加を今夏に比べ2割増と設定	
(4) 最大宿泊療養者数	360
(5) 最大自宅療養者数	2349
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	235

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	576
※念頭に置いた最大病床稼働率	0.8
うち重症者用病床数	52
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	0.8
(2) 最大確保病床数	523
うち重症者用病床数	61
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	53
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	600
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	14450
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	0
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	32
〃 追加確保予定数	68
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	364
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	364
〃 訪問看護ステーション等数	103
〃 薬局数	340
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	364

自治体名	滋賀県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	234	8月24日
人口10万人当たり	16.5	
(2) 療養者数	2689	8月27日
(3) 入院者数	351	8月25日
うち重症者数	18	9月1日
(4) 宿泊療養者数	384	8月12日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	
(6) 自宅療養者数	1804	8月28日
(7) 療養先調整中の人数	490	8月27日
うち入院先調整中の人数	16	8月10日
(8) 確保病床数	423	9月27日
重症者用確保病床数	52	9月30日
(9) 確保病床使用率	92.40%	8月25日
重症者用確保病床使用率	34.60%	9月1日
(10) 確保居室数	677	7月15日
(11) 確保居室使用率	56.70%	8月12日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	1	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	460
(2) 最大療養者数	3550
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	13%
【算定に当たっての考え方】 今夏の感染拡大を踏まえ8月に見直した推計値(4月の国推計ツール等を活用)を基本としつつ、10月事務連絡における推計の考え方を参考に、前回見直し後の本県の実績値、近隣府県の状況、今後の感染予測などを踏まえて算定。	
(3) 最大要入院者数	450
【算定に当たっての考え方】 想定最大療養者数と今夏の感染最拡大時の入院率実績を前提として、今夏と比べて陽性患者のうち高齢者割合の増による入院患者数の増加を想定して数値を算定。	
(4) 最大宿泊療養者数	500
(5) 最大自宅療養者数	2600
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	260

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	475
※念頭に置いた最大病床稼働率	95%
うち重症者用病床数	52
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	95%
(2) 最大確保病床数	475(うち30は臨時の医療施設の定員数としても計上)
うち重症者用病床数	52
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	30(30は入院待機施設の定員数としても計上)
(4) 入院待機施設の必要定員数	30
(5) 最大確保居室数(宿泊療養施設)	677
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	3335
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	確保済み
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	16
〃 追加確保予定数	0
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	253
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関する医療機関数	253
〃 訪問看護ステーション等数	44
〃 薬局数	347
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	260

自治体名	京都府
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	601人	8月26日
人口10万人当たり	23.5	
(2) 療養者数	5,302人	8月29日
(3) 入院者数	505人	9月5日
うち重症者数	91人	
うち高度重症者数	28人	
(4) 宿泊療養者数	430人	9月7日
(5) 社会福祉施設等療養者数	-	-
(6) 自宅療養者数	4,495人	8月26日
(7) 療養先調整中の人数	16人	8月4日
うち入院先調整中の人数	16人	
(8) 確保病床数	708床	9月10日
重症者用確保病床数	161床	9月10日
高度重症者用確保病床数	50床	9月10日
(9) 確保病床使用率	82.7%	8月30日
重症者用確保病床使用率	75.9%	8月29日
高度重症者用確保病床使用率	65.9%	8月27日
(10) 確保居室数	1,126室	9月1日
(11) 確保居室使用率	44.1%	8月17日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	4日	8月26日

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	679人
(2) 最大療養者数	5,990人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	10%
【算定に当たっての考え方】 今夏の緊急事態宣言対象地域の平均値を採用	
(3) 最大要入院者数	685人
【算定に当たっての考え方】 高齢者における感染者数の増加により、今夏の1.2倍入院者数増で推計	
(4) 最大宿泊療養者数	788人
(5) 最大自宅療養者数	4,517人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	272人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	829床
※念頭に置いた最大病床稼働率	82.7%
うち重症者用病床数	132床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	82.0%
うち高度重症者用病床数	43床
※念頭に置いた最大高度重症者用病床稼働率	86.0%
(2) 最大確保病床数	719床
うち重症者用病床数	161床
うち高度重症者用病床数	50床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	110人 (1施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	(3)を兼ねる
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	1,126室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	16,300台
// 追加で確保が必要な数	0台
// 予定確保期限	-
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	40台
// 追加確保予定数	80台
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	111施設
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	108施設
// 訪問看護ステーション等数	15施設
// 薬局数	39施設
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	324人

自治体名	大阪府
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	3,004人	9月1日
人口10万人当たり	34.1人	9月1日
(2) 療養者数	27,587人	9月1日
(3) 入院者数	2,628人	9月6日
うち重症者数	286人(国定義 628人)	9月9日
(4) 宿泊療養者数	3,553人	9月6日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0人	-
(6) 自宅療養者数	18,384人	8月28日
(7) 療養先調整中の人数	4,077人	8月29日
うち入院先調整中の人数	0人	-
(8) 確保病床数	3,471床	9月30日
重症者用確保病床数	605床(国定義 1,284床)	9月30日
(9) 確保病床使用率	80.2%	8月30日
重症者用確保病床使用率	47.4%(国定義 50.3%)	9月8日
(10) 確保居室数	8,408室	9月19日
(11) 確保居室使用率	61.2%	8月13日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	陽性判明日(診断日)を0日とした場合 4日 ※電話が繋がらないもの等を除く	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	3,833人
(2) 最大療養者数	39,702人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	8.3%
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>○ワクチン接種による発症予防・重症化予防が一定進む一方、新たな変異株の出現や冬に向けた感染機会の増加などにより第五波を上回る規模の新規感染者が発生した際に、宿泊療養や自宅療養も含めて重症化リスクのある方への抗体治療など重症化予防の取組を推進する場合を想定。</p> <p>○新規陽性者数については、20代～50代のワクチン接種による減を第五波ピーク時から6割と見込(60代以上は、今夏において希望者へのワクチン接種が概ね完了していたことから更なる効果は見込まず。)んだうえて、各年代が第五波の前週比の1.1倍で増加すると想定。</p> <p>※なお、上記最大新規陽性者数は、今夏における大阪府の最大新規陽性者数(3,004人)が、東京都並みに感染拡大したと仮定(今夏の東京都の人口10万人対新規陽性者数(7日間移動合計)最大値は府の1.2倍)した場合の数(3,605人)をやや上回る。</p> <p>○入院率は、府における今夏の入院率の最低入院率(8%台)の平均値設定(第五波の入院調整時における患者の症状として、軽症・無症状が44%を占める)。</p>	

(3) 最大要入院者数	3,310人
【算定に当たっての考え方】 ○基礎疾患や肥満等の重症化リスク因子を有する者の一部が入院療養となることを想定（入院率8.3%）。 ※入院とならない重症化リスク因子を有する者は、宿泊療養又は自宅療養で重症化予防のための医療を受けることを想定。 ○このうち、重症患者数は、第五波における年代別の重症率から予測。早期治療による重症率の低減については考慮していないが、20代～50代のブレークスルー感染者（新規陽性者の2割を想定）はワクチンによる重症化予防効果が維持されると想定し、除外。	
(4) 最大宿泊療養者数	7,142人
(5) 最大自宅療養者数	29,302人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	約1,400人（上記の4.5%～5%相当(第五波の宿泊療養からのオンライン診療や入院した割合の最大値)）

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	3,710床
※念頭に置いた最大病床稼働率	85.0%（第五波最大入院者数2,628人×1.2倍=3,154人に対する比率）（なお、②(3)比では89.2%）
うち重症者用病床数	605床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	84.0%
(2) 最大確保病床数	3,710床（目標数）
うち重症者用病床数	605床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	【大規模医療・療養C】 無症状・軽症者用800室、中等症患者用200床 【ホテル抗体カクテルセンター】 10床×2か所
(4) 入院待機施設の必要定員数	大阪市内30床、大阪市外11床
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	8,408室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	約47,000個
〃 追加で確保が必要な数	約8,400個
〃 予定確保期限	令和3年12月末
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	入院待機ステーション 36台 宿泊療養 126台 自宅療養 20台
〃 追加確保予定数	入院待機ステーション 無し 宿泊療養 16台 自宅療養 40台 大規模医療・療養センター 36台
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	電話オンライン協力診療機関：514 健康観察：198訪問看護ステーション

<p>(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関する医療機関数</p>	<p>電話オンライン協力診療機関：514 外来診療病院：48病院 抗体治療外来医療機関：98病院、118診療所（※1） 往診医療機関：11病院、102診療所（※2） 抗体治療往診医療機関：4病院、54診療所（※1） 診療型宿泊療養施設：9施設 （※1）抗体治療外来医療機関と抗体治療往診医療機関は重複あり。予定を含む （※2）自宅療養者等往診等協力金交付実績のある病院・診療所</p>
<p>〃 訪問看護ステーション等数</p>	<p>198（訪問看護ステーションは健康観察のみ）</p>
<p>〃 薬局数</p>	<p>1,770薬局</p>
<p>(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数</p>	<p>・抗体治療については外来・往診で約700人/日 ・電話オンライン診療や外来・往診・診療型宿泊施設は3件/日・機関(重複も勘案)として約1,500人/日</p>

自治体名	兵庫県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	1,088	8/18
人口10万人当たり	125.3	8/28
(2) 療養者数	7,897	8/28
(3) 入院者数	932	9/3
うち重症者数	85	9/7
(4) 宿泊療養者数	883	9/3
(5) 社会福祉施設等療養者数	78	8/29
(6) 自宅療養者数	4,715	8/27
(7) 療養先調整中の人数	1,714	8/25
うち入院先調整中の人数	71	9/5
(8) 確保病床数	1,357	9/8
重症者用確保病床数	142	8/3
(9) 確保病床利用率	75.3%	9/3
重症者用確保病床利用率	59.8%	9/7
(10) 確保居室数	2,011	9/18
(11) 確保居室利用率	57.1%	8/19
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	5日	8月中旬

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	1,088
(2) 最大療養者数	7,897
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	15%
【算定に当たっての考え方】 最大要入院者数1,201/最大療養者数7,897=15% (5波拡大時11%から改善)	
(3) 最大要入院者数	1,201
【算定に当たっての考え方】 1,001人 (入院者数+入院調整者の今夏最大) × 1.2倍 (入院者2割増) = 1,201	
(4) 最大宿泊療養者数	1,682
(5) 最大自宅療養者数	5,014
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	501

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	1,400床程度
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	140床程度
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	1,400床程度
うち重症者用病床数	140床程度
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	－
(4) 入院待機施設の必要定員数	－
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	2,400室程度
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	17,000
〃 追加で確保が必要な数	2,500
〃 予定確保期限	12月
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	300
〃 追加確保予定数	100
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	500
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	500
〃 訪問看護ステーション等数	30
〃 薬局数	80
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	800

自治体名	奈良県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	227人	8月24日
人口10万人当たり	17.2人	8月24日
(2) 療養者数	1,734人	9月1日
(3) 入院者数	321人	9月3日,9月4日
うち重症者数	20人	9月8日,9月12日
(4) 宿泊療養者数	603人	8月26日
(5) 社会福祉施設等療養者数	42人	9月24日
(6) 自宅療養者数	206人	8月31日
(7) 療養先調整中の人数	539人	9月2日
うち入院先調整中の人数	—	—
(8) 確保病床数	運用病床 468床	9月15日
重症者用確保病床数	運用病床 34床	8月7日
(9) 確保病床利用率	運用ベース 71%	9月3日,9月4日
重症者用確保病床利用率	運用ベース 59%	9月8日,9月12日
(10) 確保居室数	運用室数 948室	9月20日
(11) 確保居室利用率	運用ベース 79%	8月26日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	3日	8月24日

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	227人
(2) 最大療養者数	1,734人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	26%
【算定に当たっての考え方】 第5波実績相当	
(3) 最大要入院者数	457人
【算定に当たっての考え方】 第5波実績相当	
(4) 最大宿泊療養者数	1,065人
(5) 最大自宅療養者数	206人(自宅での待機期間が3日超の者)
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	10人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	457床
※念頭に置いた最大病床稼働率	100%
うち重症者用病床数	20床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	100%
(2) 最大確保病床数	475床
うち重症者用病床数	34床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	10人（1施設）（入院待機施設の必要定員数としても計上）
(4) 入院待機施設の必要定員数	10人（1施設）
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	1,136室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1,600個
〃 追加で確保が必要な数	3,400個（確保予定数）
〃 予定確保期限	令和3年度中
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	27台
〃 追加確保予定数	—
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	231医療機関
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	272医療機関
〃 訪問看護ステーション等数	0（調整中）
〃 薬局数	310薬局
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	1,000人 （入院・入所待機及び入院・入所拒否を含む）

自治体名	和歌山県
------	------

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	90人	8/20、8/24
人口10万人当たり	9.7	8/20、8/24
(2) 療養者数	562人	8月26日
(3) 入院者数	562人	8月26日
うち重症者数	5人	9月10日
(4) 宿泊療養者数	0人	
(5) 社会福祉施設等療養者数	0人	
(6) 自宅療養者数	0人	
(7) 療養先調整中の人数	0人	
うち入院先調整中の人数	0人	
(8) 確保病床数	570床	9月1日
重症者用確保病床数	26床	7月14日以降
(9) 確保病床使用率	96.50%	8月25日
重症者用確保病床使用率	19%	9月10日
(10) 確保居室数	151室	9月1日
(11) 確保居室使用率	0.0%	
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	0日	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	103.5人
(2) 最大療養者数	776.3人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	77%
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>①65歳以上の感染者数＝ワクチンの効果減として罹患率を第四波と同等：389人</p> <p>②12歳以上の感染者数＝第五波と同等：2,313人</p> <p>③11歳以下の感染者数＝第五波と同等（第四波の4倍）：280人</p> <p>(①+②+③) ÷ 2,593人 (R3.10.5現在の第五波患者数) = 1.15倍</p> <p>第五波の最大患者数 × 1.15 = 90 × 1.15 = 103.5人</p> <p>まず、(1)の入院患者の平均在院期間から最大療養者数を算出する。</p> <p>最大療養者数 = 103.5人 × 7.5日間 = 776.3</p> <p>稼働率を100%で想定すると777床の病床が必要となり、これとは別に、重症用病床として、13床を常に空床で確保するとすれば、最大必要病床数は790床となる。本需要に対して入院と宿泊療養等で対応する。</p>	
(3) 最大要入院者数	599人
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>現状の確保可能病床は620床となっているため、この病床を96.5%の稼働で運用するとすれば、599床（人）となる。</p> <p>最大宿泊療養者数は、777-599 = 178人</p>	
(4) 最大宿泊療養者数	178人
(5) 最大自宅療養者数	0人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	0人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	790床
※念頭に置いた最大病床稼働率	98.4%
うち重症者用病床数	40床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	67.50%
(2) 最大確保病床数	620床
うち重症者用病床数	40床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0人
(4) 入院待機施設の必要定員数	170人 (2施設)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	201室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	100台
// 追加で確保が必要な数	0台
// 予定確保期限	0台
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	5台
// 追加確保予定数	0台
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	7施設
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	7施設
// 訪問看護ステーション等数	0施設
// 薬局数	0施設
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	178人

自治体名	鳥取県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	47人	7月30日
人口10万人当たり	8.5人	7月30日
(2) 療養者数	325人	8月13日
(3) 入院者数	180人	8月5日
うち重症者数	3人	8/17~23
(4) 宿泊療養者数	74人	9月4日
(5) 社会福祉施設等療養者数	該当なし	-
(6) 自宅療養者数	126人	8月13日
(7) 療養先調整中の人数	53人	7月30日
うち入院先調整中の人数	該当データなし	-
(8) 確保病床数	337床	8/19~
重症者用確保病床数	47床	期間中変更なし
(9) 確保病床利用率	54.9%	8月5日
重症者用確保病床利用率	12.8%	9月16日
(10) 確保居室数	364室	8/21~
(11) 確保居室利用率	22.0%	8月1日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	陽性判明当日に保健所が陽性者に連絡を取っている	-

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	47人
(2) 最大療養者数	325人
【算定に当たっての考え方】 本県の第5波の最大値と同数に設定	
(3) 最大要入院者数	243人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	40%
【想定する要入院者の増加率】	1.2倍(2割増)
【算定に当たっての考え方】 ピーク時の入院率については、ステージⅢ(感染者急増段階)の判断指標の目安(入院率40%以下)を本県の最低値に設定	
(4) 最大宿泊療養者数	} 82人((2)-(3))
(5) 最大自宅療養者数	
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	8人((4)+(5)の1割程度)

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	304床 (243人 ÷ 80%)
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	5床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	(第5波の最大値の2割増、病床稼働率80%で算定)
(2) 最大確保病床数	337床+ α (臨時の医療施設開設等による増床を検討中)
うち重症者用病床数	47床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	(設置病床数は検討中、3施設での開設を予定)
(4) 入院待機施設の必要定員数	(開設予定なし)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	364室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	446
〃 追加で確保が必要な数	(追加確保予定あり)
〃 予定確保期限	-
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	20台
〃 追加確保予定数	(追加確保予定なし)
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	健康観察：訪問看護ステーション 28事業所 電話診療：医師 88人
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	(※) 対面診療協力医師 49人
〃 訪問看護ステーション等数	(調整中)
〃 薬局数	電話診療での処方に対応 162か所
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	49人

(※)R3.10.28現在の確保状況を記載、協力機関等の追加に向けて調整中

自治体名	島根県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	45	8月24日
人口10万人当たり	6.75	8月24日
(2) 療養者数	276	9月2日
(3) 入院者数	181	8月20日
うち重症者数	1	8月20日
(4) 宿泊療養者数	49	8月28日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	—
(6) 自宅療養者数	52	8月30日
(7) 療養先調整中の人数	47	8月25日
うち入院先調整中の人数	0	8月25日
(8) 確保病床数	324	—
重症者用確保病床数	25	—
(9) 確保病床使用率	55.9%	8月20日
重症者用確保病床使用率	8%	9/3~9/8
(10) 確保居室数	133	—
(11) 確保居室使用率	36.8%	8月28日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	1	—

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	45
(2) 最大療養者数	450
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	55%
【算定に当たっての考え方】 最大療養者数 = 今夏の1日当たりの最大新規陽性者数45人 × 10日間 = 450人 最大要入院者数 = 最大療養者数450人 × 入院必要割合(今夏のメディカルチェックを参考)45% × 第6波バッファ120% = 243人 ≒ 250人 入院率 = 最大要入院者数250人 / 最大療養者数450人 ≒ 55%	
(3) 最大要入院者数	250
【算定に当たっての考え方】 ※最大必要病床数 最大宿泊・自宅療養者数 = 最大療養者数450人 - 最大要入院者数250人 = 200人 最大必要病床数 = 最大要入院者数250人 + (最大宿泊・自宅療養者数200人 × 急変時対応割合25%) = 300人	
(4) 最大宿泊療養者数	100
(5) 最大自宅療養者数	100
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	10

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	300 ※前述の計算により算定
※念頭に置いた最大病床稼働率	83%
うち重症者用病床数	5
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	324
うち重症者用病床数	25
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	133
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	240
〃 追加で確保が必要な数	100
〃 予定確保期限	R3.11.30
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	0
〃 追加確保予定数	
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	152
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関する医療機関数	54
〃 訪問看護ステーション等数	15
〃 薬局数	134
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	202

自治体名	岡山県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	307	8月18日
人口10万人当たり	16.2	8月18日
(2) 療養者数	1,893	8月25日
(3) 入院者数	270	9月1日
うち重症者数	21	9月1日
(4) 宿泊療養者数	310	8月25日
(5) 社会福祉施設等療養者数	15	9月1日
(6) 自宅療養者数	1,311	8月25日
(7) 療養先調整中の人数	63	8月18日
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	557	8月4日
重症者用確保病床数	68	8月4日
(9) 確保病床使用率	48%	9月1日
重症者用確保病床使用率	31%	9月1日
(10) 確保居室数	507	8月18日
(11) 確保居室使用率	63%	8月4日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	1	陽性判明の翌日には連絡している

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	307
(2) 最大療養者数	1,893
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	18%
【算定に当たっての考え方】 今夏の感染拡大ピーク時3週間(8月19日～8月25日(13%)、8月26日～9月1日(16%)、9月2日～9月8日(18%))の入院率の最大値	
(3) 最大要入院者数	449
【算定に当たっての考え方】 最大療養者数(2)1,893×今夏最大入院者数270÷今夏最大療養者数1,893×都道府県が設定する入院率18%÷今夏感染拡大時入院率13%×1.2(係数)	
(4) 最大宿泊療養者数	355
(5) 最大自宅療養者数	1,089
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	110

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	557
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	68
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	557
うち重症者用病床数	68
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	507
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	3,350
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	0
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	30
〃 追加確保予定数	0
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	381
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	361
〃 訪問看護ステーション等数	0
〃 薬局数	324
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	3,510

自治体名	広島県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	381人 (ピーク日を中心とした1週間平均334人)	8/21
人口10万人当たり	13.6人	8/21
(2) 療養者数	3,070人	8/30
(3) 入院者数	487人	9/5
うち重症者数	21人(重傷者数の最大は8/31, 9/1の23人)	9/5
(4) 宿泊療養者数	1,254人	8/22
(5) 社会福祉施設等療養者数	11人	7/1~11, 9/4~6
(6) 自宅療養者数	1,136人	8/29, 9/2
(7) 療養先調整中の人数	555人	8/25
うち入院先調整中の人数	0人	-
(8) 確保病床数	872床	9/28~30
重症者用確保病床数	69床	7/21~9/30
(9) 確保病床使用率	57.4%	9/5
重症者用確保病床使用率	33.3%	8/31, 9/1
(10) 確保居室数	2,270室	9/6~16
(11) 確保居室使用率	74.4%	8/22
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	1日	-

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	358人 (ピーク日を中心とした1週間平均 337人)
(2) 最大療養者数	3,091人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	25%
【算定に当たっての考え方】 第5波における年代別の入院比率(新規陽性者のうち入院となった者の割合)等の実績を参考に、高齢者割合の増加を想定したシミュレーションにより算定した。	
(3) 最大要入院者数	774人
【算定に当たっての考え方】 第5波における年代別の入院比率(新規陽性者のうち入院となった者の割合)等の実績を参考に、高齢者割合の増加を想定したシミュレーションにより算定した。	
(4) 最大宿泊療養者数	1,971人
(5) 最大自宅療養者数	580人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	58人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1)最大必要病床数	911床
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	53床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2)最大確保病床数	938床((3)臨時の医療施設106床を含む)
うち重症者用病床数	64床
(3)臨時の医療施設の必要定員数	定員数106床(3施設)
(4)入院待機施設の必要定員数	(106床)((3)臨時の医療施設を活用)
(5)最大確保居室数(宿泊療養施設)	2,397室
(6)パルスオキシメーターの足下確保数	3,735台(自宅療養者用) 2,850台(宿泊療養者用)
" 追加で確保が必要な数	0台(足下の台数で必要数を確保している)
" 予定確保期限	—
(7)酸素濃縮装置の足下確保数	85台
" 追加確保予定数	67台(臨時の医療施設新設用)
(8)自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	0か所(民間への外部委託を検討中)
(9)有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	324か所 (うち オンライン診療対応 308か所, 往診対応 155か所)
" 訪問看護ステーション等数	77か所
" 薬局数	419か所
(10)自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	58人

自治体名	山口県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	119	8月19日
人口10万人当たり	8.8	8月19日
(2) 療養者数	804	8月26日
(3) 入院者数	327	8月21日
うち重症者数	6	9月7日
(4) 宿泊療養者数	222	8月28日
(5) 社会福祉施設等療養者数	31	8月30日
(6) 自宅療養者数	68	8月21日
(7) 療養先調整中の人数	248	8月26日
うち入院先調整中の人数	64	8月19日
(8) 確保病床数	633	9月1日
重症者用確保病床数	47	9月1日
(9) 確保病床利用率	61.4%	8月21日
重症者用確保病床利用率	12.8%	9月7日
(10) 確保居室数	583	9月1日
(11) 確保居室利用率	46.0%	8月28日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	0	—

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	206
(2) 最大療養者数	1,400
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	34.3%
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>今夏の感染拡大ピーク時(8/26)の総療養者数:804人(人口10万人あたり:59.2人)に対し、中四国九州(16県)の人口10万人あたりの総療養者数平均(98.6人:本県の約1.7倍)を踏まえ、想定する最大療養者数を1400人と見込んだ</p> <p>・今夏の総療養者数804人 × 中四国九州平均98.6人/本県59.2人 = 1340人 ⇒1400人</p> <p>上記に加え、想定する(3)最大要入院者数:480人により、感染拡大のピーク時の入院率を34.3%と見込んだ</p> <p>・最大要入院者数480人 / 最大療養者数1400人 = 34.3%</p>	

(3) 最大要入院者数	480
<p>【算定に当たっての考え方】</p> <p>今夏の感染拡大ピーク時（8/26：総療養者数804人）の入院者のうち、真に入院が必要な者（重症・中等症、妊婦、重症化リスクある乳幼児及び高齢者等）の内訳が230人であったため、今後のワクチン接種の進展や2倍程度の感染力を持つ変異株の出現等による「要入院患者の2割増」等の影響を乗じた推計により、最大療養者1,400人となった際の最大入院者数として480人と見込んだ。</p> <p><参考：国の示した算定式による演算結果></p> <p>・最大療養者1400人 × 今夏のピーク時の要入院者割合230人/804人 × 1.2倍 = 480人</p>	
(4) 最大宿泊療養者数	920
(5) 最大自宅療養者数	0
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	0

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	549
※念頭に置いた最大病床稼働率	87%
うち重症者用病床数	14
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	30% (感染ピーク時の想定重症患者数14人/47床)
(2) 最大確保病床数	649
うち重症者用病床数	47
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	60 (1施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	-
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	930
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	2,445
〃 追加で確保が必要な数	230
〃 予定確保期限	令和3年12月
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	32
〃 追加確保予定数	0
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	187
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	187
〃 訪問看護ステーション等数	55
〃 薬局数	317
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	300

自治体名	徳島県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	64	8月25日
人口10万人当たり	9	8月25日
(2) 療養者数	503	8月30日
(3) 入院者数	142	8月29日
うち重症者数	7	9月7日
(4) 宿泊療養者数	261	8月27日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	
(6) 自宅療養者数	152	9月2日
(7) 療養先調整中の人数	0	
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	234	
重症者用確保病床数	25	
(9) 確保病床使用率	60.70%	8月29日
重症者用確保病床使用率	28.00%	9月7日
(10) 確保居室数	400	8月29日
(11) 確保居室使用率	94.57%	8月27日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	0日	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	77
(2) 最大療養者数	605
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	25%
【算定に当たっての考え方】 今夏の感染状況から、最大新規陽性者数に乘じる「係数①」については、四国地域の平均値（1.2）を採用し、算定	
(3) 最大要入院者数	205
【算定に当たっての考え方】 今夏と比較し、本県が設定する入院率は、今夏の実績（0.25）を採用するとともに、増加率は、高齢者割合の増加等を踏まえ、2割増として設定（係数②：1.0、係数③：1.2）	
(4) 最大宿泊療養者数	360
(5) 最大自宅療養者数	40
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	4

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	256
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	25
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	50%
(2) 最大確保病床数	256 (うち22床は臨時の医療施設の定員数としても計上)
うち重症者用病床数	25
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	22
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	450
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	2500
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	必要数量は、確保済
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	50
〃 追加確保予定数	0
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	211
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関する医療機関数	57
〃 訪問看護ステーション等数	13
〃 薬局数	249
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	200人/日

自治体名	香川県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	111	8月18日
人口10万人当たり	11.6	〃
(2) 療養者数	867	8月25日
(3) 入院者数	164	8月22日
うち重症者数	11	8/18,9/2
(4) 宿泊療養者数	110	8月13日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	
(6) 自宅療養者数	226	8月28日
(7) 療養先調整中の人数	473	8月24日
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	234	9月1日
重症者用確保病床数	28	9月1日
(9) 確保病床使用率	66.70%	8月22日
重症者用確保病床使用率	39.30%	8/18,9/2
(10) 確保居室数	212	9月1日
(11) 確保居室使用率	51.90%	8月13日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	1	-

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	111
(2) 最大療養者数	867
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	17.6%
【算定に当たっての考え方】 第5波における本県の最大感染拡大時(療養者数最大の日:8月25日)の入院率とする。 (参考)緊急事態宣言対象都道府県平均:10%、アドバザリボード資料による全国平均:12.6%(8/25)	
(3) 最大要入院者数	197
【算定に当たっての考え方】 国の示した算定式による $867人 \times 164人 / 867人 \times 係数②1.0 \times 係数③1.2 = 197人$	
(4) 最大宿泊療養者数	270
(5) 最大自宅療養者数	400
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	40

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	246
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	30
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	262
うち重症者用病床数	30
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数(宿泊療養施設)	424
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1389
〃 追加で確保が必要な数	200
〃 予定確保期限	
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	40
〃 追加確保予定数	5
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	102
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	37
〃 訪問看護ステーション等数	16
〃 薬局数	315
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	482

自治体名	愛媛県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	102	8月19日
人口10万人当たり	7.62	
(2) 療養者数	740	8月24日
(3) 入院者数	123	8月29日
うち重症者数	7	8月23日
(4) 宿泊療養者数	116	8月13日
(5) 社会福祉施設等療養者数	1	8/15、8/19
(6) 自宅療養者数	540	8月24日
(7) 療養先調整中の人数	7	9月10日
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	253	9月1日
重症者用確保病床数	26	9月1日
(9) 確保病床利用率	48.6%	8月29日
重症者用確保病床利用率	26.9%	8月23日
(10) 確保居室数	263	7月15日
(11) 確保居室利用率	44.1%	8月13日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	1	陽性判明日の翌日までに連絡済

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	153
(2) 最大療養者数	1110
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	14.0%
【算定に当たっての考え方】 ・今夏の四国4県のピーク時の平均をもとに、今夏の1.5倍の1日当たり最大陽性者数及び最大療養者数を想定。	
(3) 最大要入院者数	222
【算定に当たっての考え方】 ・入院率については、今夏と同程度と想定（14.0%） ・入院者増加率については、今夏と比べて2割増加を見込む。	
(4) 最大宿泊療養者数	132
(5) 最大自宅療養者数	756
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	76

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	278
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	26
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	311 (うち10床(1施設)は臨時の医療施設としても計上)
うち重症者用病床数	26
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	(確保病床のうち10床、宿泊療養施設のうち57室(1施設)を臨時の医療施設として計上)
(4) 入院待機施設の必要定員数	(なし)
(5) 最大確保居室数(宿泊療養施設)	253 (うち57室(1施設)は臨時の医療施設としても計上)
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1694(松山市分を含む)
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	—
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	30
〃 追加確保予定数	(検討中)
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	177
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	184
〃 訪問看護ステーション等数	0
〃 薬局数	255
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	408

自治体名	高知県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	111	8月25日
人口10万人当たり	16.3	8月25日
(2) 療養者数	744	8月30日
(3) 入院者数	108	8月26日
うち重症者数	10	9月8日
(4) 宿泊療養者数	178	8月20日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	
(6) 自宅療養者数	542	8月30日
(7) 療養先調整中の人数	29	8月25日
うち入院先調整中の人数	9	8月25日
(8) 確保病床数	234	9月1日
重症者用確保病床数	24	7月1日
(9) 確保病床使用率	47.8%	8月26日
重症者用確保病床使用率	41.7%	9月8日
(10) 確保居室数	261	9月8日
(11) 確保居室使用率	80.5%	8月20日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	1	7月1日

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	127
(2) 最大療養者数	851
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	18.20%
【算定に当たっての考え方】 高知県で自宅療養を行った8月21日から9月16日の平均値	
(3) 最大要入院者数	249
【算定に当たっての考え方】 最大療養者数に今夏最大値での入院率 $((108+9)/744)$ 、入院係数 $(18.2\%/14.1\%)$ 、高齢化係数(全国の2割増の更に2割増： 1.2×1.2)を乗じて算出	
(4) 最大宿泊療養者数	231
(5) 最大自宅療養者数	371
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	37

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	311
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	58
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	50%
(2) 最大確保病床数	296
うち重症者用病床数	58
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	15 (1施設)
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	385
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1260
〃 追加で確保が必要な数	250
〃 予定確保期限	11月末
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	6台 (宿泊療養施設用) ※
〃 追加確保予定数	4台 (宿泊療養施設用) ※
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	初診電話診療47 (再診を含めると199)
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	初診電話診療47
〃 訪問看護ステーション等数	0 (対応可能な訪看STなし)
〃 薬局数	202
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	0 ※常時酸素が必要な場合は、入院対応とし、宿泊療養施設において緊急対応用に台数確保

自治体名	福岡県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	1253	8月18日
人口10万人当たり	24.5	8月18日
(2) 療養者数	11563	8月29日
(3) 入院者数	1021	8月26日
うち重症者数	40	8月31日
(4) 宿泊療養者数	1528	8月18日
(5) 社会福祉施設等療養者数	5	9月1日
(6) 自宅療養者数	9127	8月29日
(7) 療養先調整中の人数	586	9月7日
うち入院先調整中の人数	0	—
(8) 確保病床数	1482	9月29日
重症者用確保病床数	203	8月24日
(9) 確保病床利用率	69.4%	8月26日
重症者用確保病床利用率	19.7%	8月31日
(10) 確保居室数	2106	7月1日
(11) 確保居室利用率	72.6%	8月18日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	3	8月10日

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	1253
(2) 最大療養者数	11563
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	9%
【算定に当たっての考え方】 今夏の療養者数ピーク時（8月24日～30日）の平均	
(3) 最大要入院者数	1241
【算定に当たっての考え方】 最大療養者数：11563人 × （今夏の最大入院者数：1021人＋今夏の最大入院待機者数：13人） ／今夏の最大療養者数：11563人 × 今夏と比べた要入院者数の増加に留意した計数：1.2	
(4) 最大宿泊療養者数	1680
(5) 最大自宅療養者数	8642
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	864

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	1460
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	57
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	1482
うち重症者用病床数	203
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	－（※入院待機施設に含む）
(4) 入院待機施設の必要定員数	約200（4～5施設程度）
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	2400
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	20617
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	－
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	20
〃 追加確保予定数	4
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	約1000
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	約1000
〃 訪問看護ステーション等数	24
〃 薬局数	約1800
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	約2000

自治体名	佐賀県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	182	8月18日
人口10万人当たり	111.41	8月23日
(2) 療養者数	1087	8月26日
(3) 入院者数	249	8月21日
うち重症者数	3	8月25日
(4) 宿泊療養者数	367	8月18日
(5) 社会福祉施設等療養者数	—	—
(6) 自宅療養者数	592	8月26日
(7) 療養先調整中の人数	—	—
うち入院先調整中の人数	—	—
(8) 確保病床数	434	9月1日
重症者用確保病床数	48	9月1日
(9) 確保病床利用率	65.5%	8月21日
重症者用確保病床利用率	6.3%	8月25日
(10) 確保居室数	495	9月1日
(11) 確保居室利用率	74.1%	8月18日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	1	夜中の発生届により翌日連絡はある。

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	182
(2) 最大療養者数	1322
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	40%
【算定に当たっての考え方】	
<ul style="list-style-type: none"> ・70歳以上は全員入院 ・0歳～69歳はピーク時陽性者数のうち29%を入院（8/5～9/14実績参考） 	
(3) 最大要入院者数	349
【算定に当たっての考え方】	
<ul style="list-style-type: none"> ・70%が8日目退院、30%が抗体カクテル療法により3日間で退院（退院後は臨時医療施設・宿泊療養施設・自宅で療養） 	
(4) 最大宿泊療養者数	461
(5) 最大自宅療養者数	512
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	52

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	436
※念頭に置いた最大病床稼働率	0.8
うち重症者用病床数	4
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	0.8
(2) 最大確保病床数	545(うち50は臨時の医療施設の定員数としても計上)
うち重症者用病床数	48
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	定員数50(施設数1)
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数(宿泊療養施設)	615
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	3000
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	なし
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	10
〃 追加確保予定数	20
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	157
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	157
〃 訪問看護ステーション等数	5
〃 薬局数	496
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	512

自治体名	長崎県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	114人	R3.8.19
人口10万人当たり	8.8人	
(2) 療養者数	818人	R3.8.22
(3) 入院者数	214人	R3.8.23
うち重症者数	2人	
(4) 宿泊療養者数	170人	R3.8.25
(5) 社会福祉施設等療養者数	0人	
(6) 自宅療養者数	391人	R3.8.24
(7) 療養先調整中の人数	96人	R3.8.17
うち入院先調整中の人数	0人	
(8) 確保病床数	532床	R3.9.1
重症者用確保病床数	42室	
(9) 確保病床利用率	50.00%	R3.8.23
重症者用確保病床利用率	4.76%	
(10) 確保居室数	433室	R3.9.1
(11) 確保居室利用率	39.26%	
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	2日	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	170人
(2) 最大療養者数	1,220人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	38%
【算定に当たっての考え方】	
■ 1日当たり最大新規陽性者数 ・感染拡大の傾向が類似する熊本県、宮崎県、鹿児島県の人口10万人対7日間移動合計を参考に、本県における今夏の最大7日間移動平均（87.86人）の1.94倍と想定	
■ 最大療養者数 ・（1日当たり最大新規陽性者数170人/第5波最大新規陽性者数114人）×第5波療養者数818人	
(3) 最大要入院者数	464人
【算定に当たっての考え方】	
・第5波におけるピーク時の入院率26%、今後想定する感染拡大のピーク時の入院率 38%	
(4) 最大宿泊療養者数	529人
(5) 最大自宅療養者数	227人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	23人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	546床
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	5床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	12%
(2) 最大確保病床数	556床（臨時の医療施設・入院待機施設含まず）
うち重症者用病床数	42床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	20人（2施設）（宿泊療養施設10室を含む）
(4) 入院待機施設の必要定員数	—
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	761室（臨時の医療施設10室を含む）
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1580個（保健所設置市分含む）
〃 追加で確保が必要な数	120個
〃 予定確保期限	調整中
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	52台
〃 追加確保予定数	24台
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	124施設
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	124施設
〃 訪問看護ステーション等数	0
〃 薬局数	496施設
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	20人

自治体名	熊本県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	297人	8月19日
人口10万人当たり	17人	
(2) 療養者数	2,314人	8月28日
(3) 入院者数	374人	8月28日
うち重症者数	21人	9月6～7日
(4) 宿泊療養者数	399人	9月2日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0人	-
(6) 自宅療養者数	1,177人	8月28日
(7) 療養先調整中の人数	669人	8月21日
うち入院先調整中の人数	84人	8月25日
(8) 確保病床数	610床 (緊急時：732床)	9月1日
重症者用確保病床数	56床 (緊急時：71床)	9月1日
(9) 確保病床利用率	54.1%	8月21日
重症者用確保病床利用率	29.6%	9月6～7日
(10) 確保居室数	789室	9月1日
(11) 確保居室利用率	56%	8月25日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	1日	-

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	300人
(2) 最大療養者数	2,337人
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	15.60%
【算定に当たっての考え方】 想定される1日新規陽性者数(300人)と、実績値(療養者2,314人、新規陽性者297人)から算定	
(3) 最大要入院者数	544人
【算定に当たっての考え方】 最大療養者数と実績値を用い、国の提示した計算式を使用。第6波の伸び率としては1.2を使用。	
(4) 最大宿泊療養者数	700人
(5) 最大自宅療養者数	1,093人
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	100人

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	680床
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	56床
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	50%
(2) 最大確保病床数	764床からの増床協議中
うち重症者用病床数	56床
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0人
(4) 入院待機施設の必要定員数	0人
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	1,000室
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	4,335個
〃 追加で確保が必要な数	200個（小児用）
〃 予定確保期限	11月末
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	13個
〃 追加確保予定数	0個
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	302機関
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	147機関
〃 訪問看護ステーション等数	29機関
〃 薬局数	172機関
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	280人

自治体名	大分県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	215	8月21日
人口10万人当たり	117.2	8月25日
(2) 療養者数	1,463	8月26日
(3) 入院者数	268	8月30日
うち重症者数	5	9月4日
(4) 宿泊療養者数	486	8月24日
(5) 社会福祉施設等療養者数	6	8月23日
(6) 自宅療養者数	598	8月30日
(7) 療養先調整中の人数	440	8月25日
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	454	9月1日
重症者用確保病床数	43	7月1日～
(9) 確保病床利用率	60.0%	8月30日
重症者用確保病床利用率	11.6%	9月4日
(10) 確保居室数	984	9月1日
(11) 確保居室利用率	89.3%	8月21日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	0	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	215
(2) 最大療養者数	1,463
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	22.2%
【算定に当たっての考え方】 今夏のピーク時の入院率16.8%は、急激に感染者が増加した時期であり、宿泊療養施設等からの搬送能力の向上により入院率1割増加を見込んで入院率は18.5%と想定。さらに、ワクチン効果の減退に伴う高齢者割合の増加を2割見込みピーク時の入院率を22.2%とする。	
(3) 最大要入院者数	325
【算定に当たっての考え方】 最大療養者数にピーク時の入院率22.2%として最大要入院者数を算定。	
(4) 最大宿泊療養者数	1,038
(5) 最大自宅療養者数	100
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	1

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	406
※念頭に置いた最大病床稼働率	80.0%
うち重症者用病床数	8
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80.0%
(2) 最大確保病床数	510
うち重症者用病床数	43
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	200室 (2棟) ※1棟79室～2棟200室程度確保予定
(4) 入院待機施設の必要定員数	0
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	1,319
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	2,470
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	0
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	10
〃 追加確保予定数	10 ※調達困難
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	20 (自宅療養者分) + 37 (宿泊療養分)
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	20 (自宅療養者分) + 37 (宿泊療養分)
〃 訪問看護ステーション等数	0
〃 薬局数	9 (宿泊療養分)
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	200

自治体名	宮崎県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	158	8月20日
人口10万人当たり	79.0	8月26日
(2) 療養者数	1232	8月27日
(3) 入院者数	155	8月30日
うち重症者数	12	9月11日
(4) 宿泊療養者数	194	8月24日
(5) 社会福祉施設等療養者数	10	8月21日
(6) 自宅療養者数	800	8月27日
(7) 療養先調整中の人数	270	8月23日
うち入院先調整中の人数	7	8月18日
(8) 確保病床数	307	9月1日
重症者用確保病床数	33	9月1日
(9) 確保病床利用率	50.5	8月30日
重症者用確保病床利用率	36.4	9月11日
(10) 確保居室数	450	9月1日
(11) 確保居室利用率	43.1	8月24日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数（最大値）	1日未満	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	221
(2) 最大療養者数	1724
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	16%
【算定に当たっての考え方】 今夏と同等の入院率	
(3) 最大要入院者数	272
【算定に当たっての考え方】 今夏と比べ、全療養者に占める高齢者の割合が2割高まると想定した。	
(4) 最大宿泊療養者数	315
(5) 最大自宅療養者数	1137
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	114

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	340
※念頭に置いた最大病床稼働率	80%
うち重症者用病床数	26
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	80%
(2) 最大確保病床数	340
うち重症者用病床数	33
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	-
(4) 入院待機施設の必要定員数	-
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	450
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	1560
〃 追加で確保が必要な数	0
〃 予定確保期限	-
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	22
〃 追加確保予定数	-
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	12
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	20
〃 訪問看護ステーション等数	9
〃 薬局数	9
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	120

自治体名	鹿児島県
------	------

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	251	8月19日
人口10万人当たり 251人×100,000人/1,601,711人	15.67	8月19日
(2) 療養者数	2119	8月26日
(3) 入院者数	416	8月26日
うち重症者数	8	9月12日
(4) 宿泊療養者数	472	8月30日
(5) 社会福祉施設等療養者数	0	
(6) 自宅療養者数	0	
(7) 療養先調整中の人数	1396	8月26日
うち入院先調整中の人数	0	
(8) 確保病床数	628	9月24日
重症者用確保病床数	41	7月1日
(9) 確保病床利用率 374床/488床	76.6%	8月26日
重症者用確保病床利用率 7床/39床	17.9%	9月4日
(10) 確保居室数	970	8月28日
(11) 確保居室利用率 370室/620室	60%	8月15日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数(最大値)	判明日当日には全員に連絡	

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	251
(2) 最大療養者数	2119
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	23%
【算定に当たっての考え方】 国が示した考え方に基づき、係数①を1として算定	
(3) 最大要入院者数	589
【算定に当たっての考え方】 国が示した考え方に基づき、係数②を1.18、係数③を1.2として算定	
(4) 最大宿泊療養者数(2)-(3)	1530
(5) 最大自宅療養者数	0
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	0

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	693
※念頭に置いた最大病床稼働率	85%
うち重症者用病床数	14
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85%
(2) 最大確保病床数	628
うち重症者用病床数	39
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	0
(4) 入院待機施設の必要定員数	65
(5) 最大確保居室数（宿泊療養施設）	1700
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	鹿児島県保有 2600 (上記以外 鹿児島市保有 1000)
〃 追加で確保が必要な数	鹿児島県分 1000
〃 予定確保期限	R3.11月末
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	10
〃 追加確保予定数	30
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	-
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	-
〃 訪問看護ステーション等数	-
〃 薬局数	-
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	-

自治体名	沖縄県
------	-----

①今夏の感染拡大時の状況		
	7月以降9月末までの最大値	日付
(1) 1日当たり新規陽性者数	809	8月25日
人口10万人当たり	54.47	8月25日
(2) 療養者数	6,910	8月27日
(3) 入院者数	713(※)	8月25日
うち重症者数	35	
(4) 宿泊療養者数	376	8月16日
(5) 社会福祉施設等療養者数	98	8月20日
(6) 自宅療養者数	3,139	8月30日
(7) 療養先調整中の人数	3,042	8月20日
うち入院先調整中の人数	17	
(8) 確保病床数	863	9月15日
重症者用確保病床数	67	9月15日
(9) 確保病床利用率	85.6%	8月29日
重症者用確保病床利用率	84.8%	8月27日
(10) 確保居室数	752	9月1日
(11) 確保居室利用率	87.0%	9月7日
(12) 陽性判明から保健所・医療機関等による最初の連絡までに要した日数 (最大値)	1.5日	8月25日

②想定する感染拡大のピーク時における最大値	
(1) 1日当たり最大新規陽性者数	809
(2) 最大療養者数	6,744
【想定する感染拡大のピーク時の入院率】	10.6%
【算定に当たっての考え方】 今夏の最大感染拡大時(8/25)の実績値を用いて算出した。	
(3) 最大要入院者数	876
【算定に当たっての考え方】 今夏と比べて高齢者割合が上昇すること等を踏まえて、要入院患者数を2割増加した。	
(4) 最大宿泊療養者数	1,200
(5) 最大自宅療養者数	4,668
うち有症状・急変対応が必要と見込まれる人数	467

③想定する感染拡大のピーク時に向けた体制の確保	
(1) 最大必要病床数	1,031
※念頭に置いた最大病床稼働率	85.0%
うち重症者用病床数	79
※念頭に置いた最大重症者用病床稼働率	85.0%
(2) 最大確保病床数	917
うち重症者用病床数	79
(3) 臨時の医療施設の必要定員数	114 (※下記記入待機施設と重複。緊急時に下記施設を臨時の医療施設に転換する)
(4) 入院待機施設の必要定員数	114 (計2施設)
(5) 最大確保居室数 (宿泊療養施設)	1,412 (うち114は入院待機施設の必要定員数としても計上)
(6) パルスオキシメーターの足下確保数	15,860台
〃 追加で確保が必要な数	4,000台 (予定)
〃 予定確保期限	12月末
(7) 酸素濃縮装置の足下確保数	200台 (リース契約)
〃 追加確保予定数	32台 (国からの無償貸付10月予定)
(8) 自宅療養者等の健康観察・診療で連携する医療機関数	1
(9) 有症状等の自宅療養者等の治療に関与する医療機関数	96
〃 訪問看護ステーション等数	16
〃 薬局数	47
(10) 自宅療養者等の治療体制により対応可能な患者数	10